

麻疹（はしか）について

1. 麻疹とは（症状や感染力について）

- ◆潜伏期間（感染者と接触してから症状が出るまでの期間）は、概ね10日から12日程度（約2週間）です。
- ◆初期症状は発熱や咳・鼻水などの風邪症状や、関節痛、目の充血・目やになどの様々な症状が出ます。熱は一旦下がった後、再び高熱が出ると同時に発疹がでます。高熱が続き、肺炎や脳炎を併発すると重症化する場合がありますが、合併症がない場合には7～10日程で回復します。
- ◆上記の風邪症状が出現する1日前から熱が下がった後3日くらいまでの間は、人へ感染させる力（感染力）があります。発疹が出る前から感染性があるので、風邪と見分けにくく発見が遅れがちです。
- ◆麻疹は患者さんから飛び散ったウイルスを吸い込むことでうつります。換気が不十分な空間では、空気中にただようウイルスの吸入で感染します。免疫を持たないと90%以上の人が感染し発病します。
※食品内や体の外でのウイルスは増殖できず、細菌とは異なり数時間で感染力を失います。

2. 罹患歴・予防接種歴についてご確認ください

- ◆一度かかったり、予防接種を2回受けている方は、感染の可能性は低いと考えられます。
- ◆平成2年4月2日以降に生まれた方は、定期接種（市町村が案内）にて麻疹の予防接種を2回受ける機会がありました。ご自身の母子健康手帳で接種歴を確認してください。
- ◆平成2年4月1日以前に生まれた方は、幼児期に1回予防接種を受けていても年月が経過していますので感染防御のための十分な免疫が残っていない可能性があります。
接種歴が不明な方や、1回のみ接種や満26歳から40歳前半の方は、免疫が不十分な可能性が高く、注意深い健康観察が必要です。また、今後の感染防御に備え、医療機関へご相談の上、ワクチン接種をお勧めします（自費）。
※妊娠している場合、ワクチンの接種を受けることはできません。妊娠中は流産や早産を起こす可能性があるため、流行時は外出を避け、人ごみに近付かないようにするなどの注意が必要です。
- ◆40歳後半以上の方は、小さい頃に麻疹にかかっていた可能性が高いです。

3. 症状がある時の対応は？

- ◆接触日から3週間は健康観察を行い、37.0度以上（16歳未満は37.5度）の発熱がある場合は、保育園、学校や仕事を休み、医療機関で診断を受けてください。
※麻疹のワクチンを1回のみ接種している場合には、はっきりしない症状を呈することがあるため（修飾麻疹）、風邪と誤っていても実際には麻疹の可能性があるので注意が必要です。
- ◆医療機関を受診する際にはあらかじめ、電話で麻疹患者との接触の機会があり自身が麻疹である可能性があることを伝え、医療機関の指示に従い、公共交通機関の利用を避けて、受診してください。

麻疹に関するお問い合わせ・ご相談は、下記までご連絡ください。

新潟市保健所 保健管理課 感染症対策室（025-212-8194）